

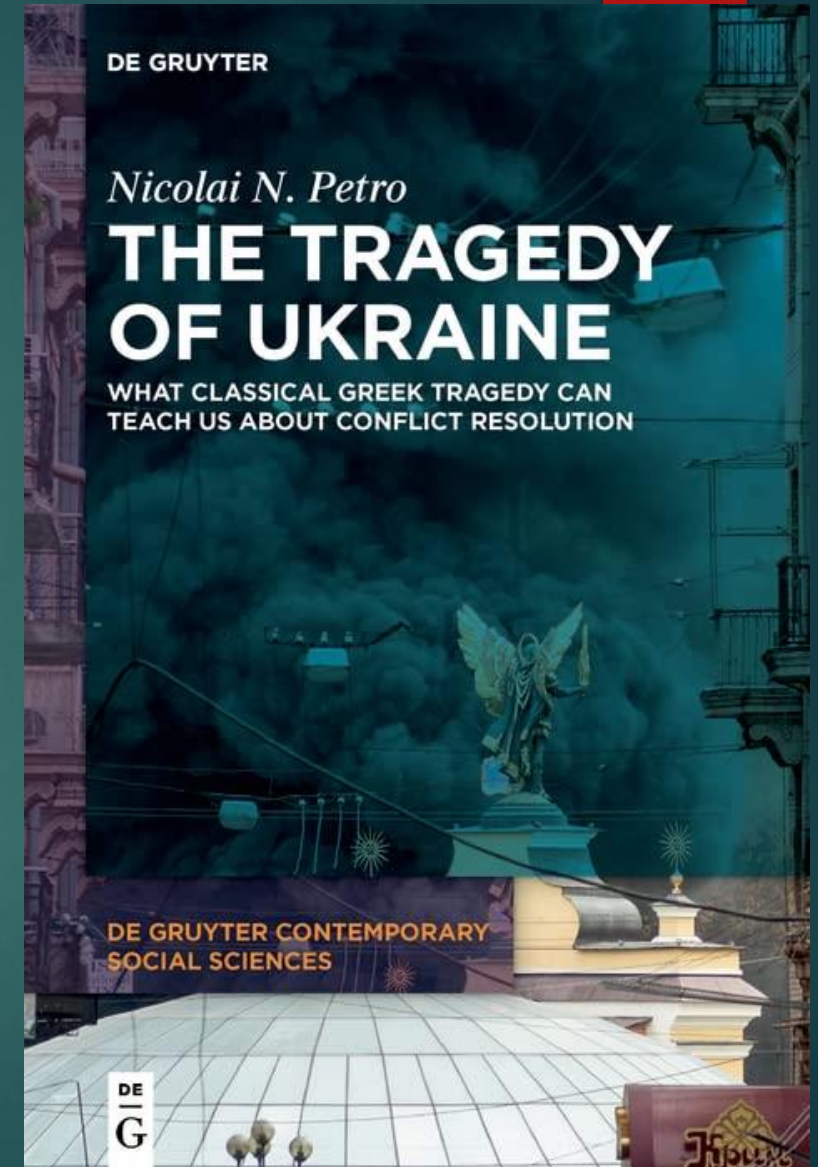


ウクライナ戦争・その論理と 停戦の可能性

世界資本主義フォーラム 2023年6月24日 午後
13:00-16:00 神奈川大学・法政大学
下斗米伸夫

『ウクライナの悲劇ー兄弟殺しのウクライナ戦争』

- ▶ ギリシャ文明の末裔として（キリスト教、哲学）
- ▶ ギリシャ悲劇として描いた米専門家ニコライ・ペトロ
- ▶ 序幕はいつからか（988年？1654年？1922年？1954年？1991年？2008年？2014年？）
- ▶ 第一幕 2021年6月に、ジュネーブで米ロ首脳会議（対面）
- ▶ バイデン外交交渉に応じず、プーチン3日戦争の敗北、トルコの仲介で中立と平和の交換、しかし英米政府の介入で、ロシア弱体化へと転換
- ▶ 第二幕 22年秋から23年5月末広島G7まで、バフムトなどでの消耗戦でプーチン辛勝
- ▶ 第三幕 ウクライナの反転攻勢が失敗したら、朝鮮半島モデルか？



988年、クリミアでキエフ・ルーシ大公洗礼、³
ヘルソネス（クリミア）、ロシアとウクライナの祖
（左は聖使徒ウラジーミル大寺院）



ウクライナ「国境」を作ったソ連政治家、それぞれの「罪」



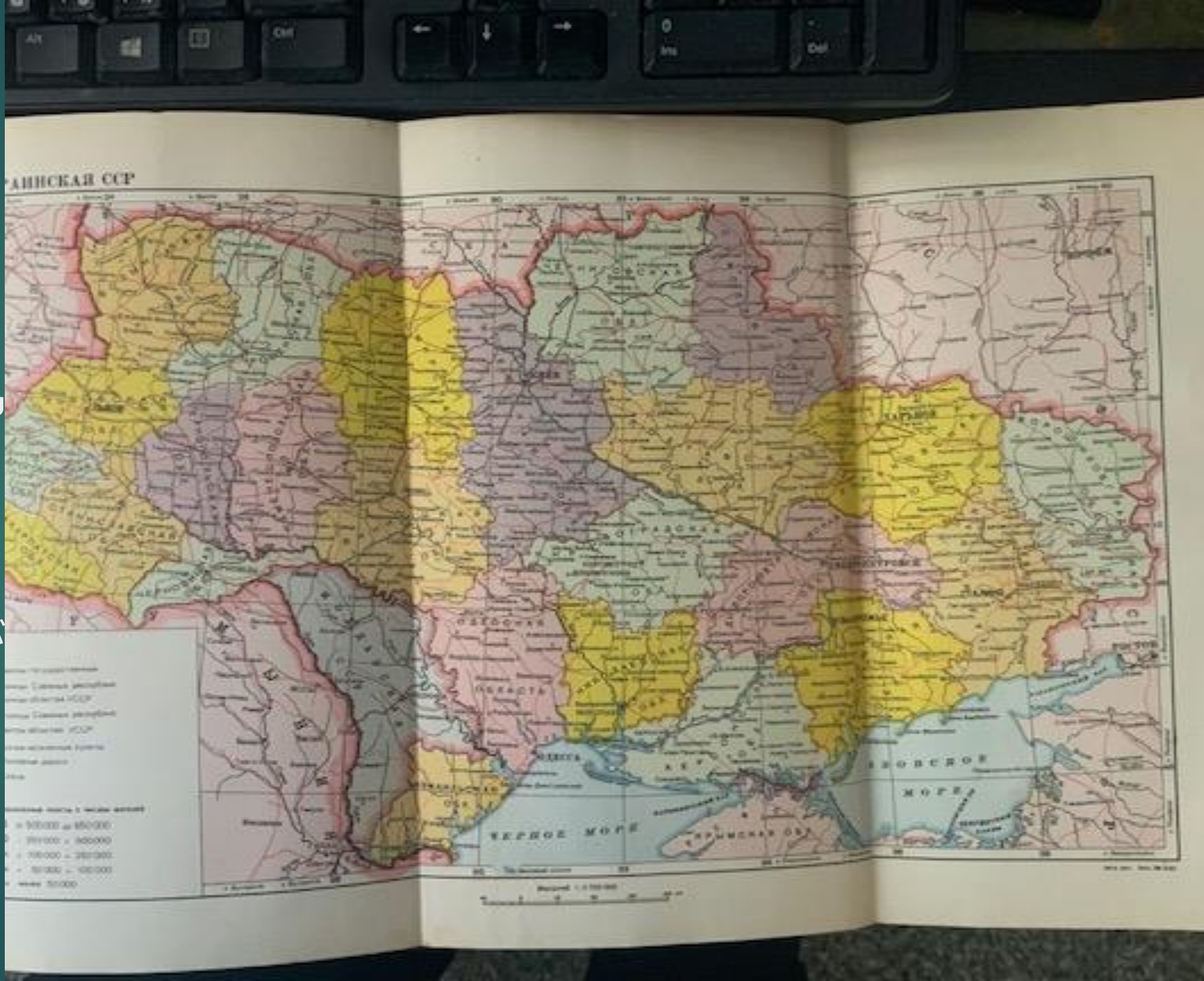
ヤルタ＝クリミア問題と戦後国際政治

- 戦後国際秩序の基礎としてのヤルタ
- 戦死者数、ソ連（2700万）、ドイツ800万、ポーランド550万、英50万、米国50万、日本310万、
- ウクライナは国連原加盟国（国連にウクライナ、ベラルーシ）が参加
- クリミア半島はもとロシア領（1954年フルシチョフ第一書記が譲渡）



国連加盟国ウクライナの地図(1947)

クリミアはロシア領、
1954年にフルシチョフが
ウクライナ領へ
ルガンスク州はボロシー
ロフグラド州、ドネツク
州はスターリノ州

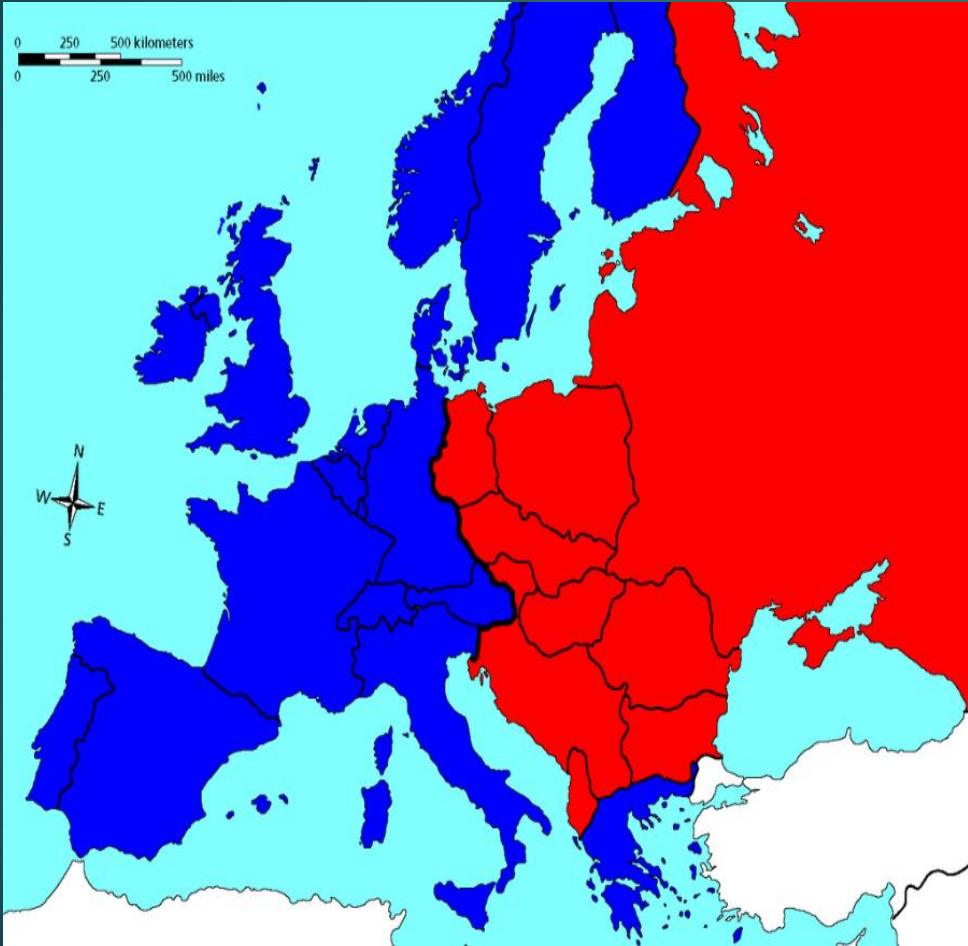


1991年8月クーデターからソ連崩壊まで

- ペレストロイカと新連邦条約問題
- 1990年に共和国主権(中立)
- 1991年8月新連邦条約とクーデター(19-21日)、エリツィン勝利、
- ウクライナ独立宣言(24日)での呉越同舟
- 91年12月1日、ウクライナ国民投票とクラフチュク大統領(イデオロギー書記)



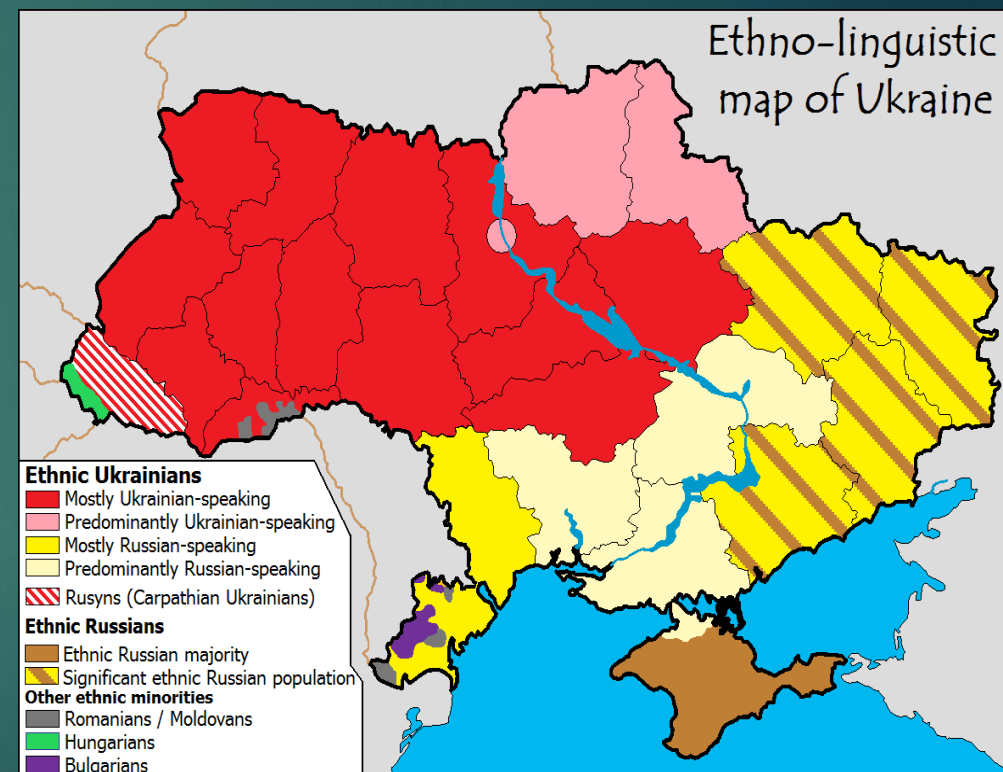
『文明の衝突』 Huntington (1996) と1946年の東西関係



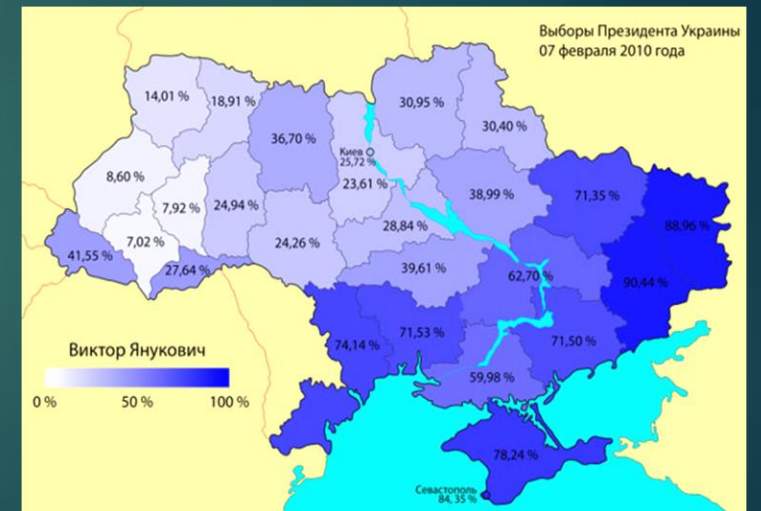
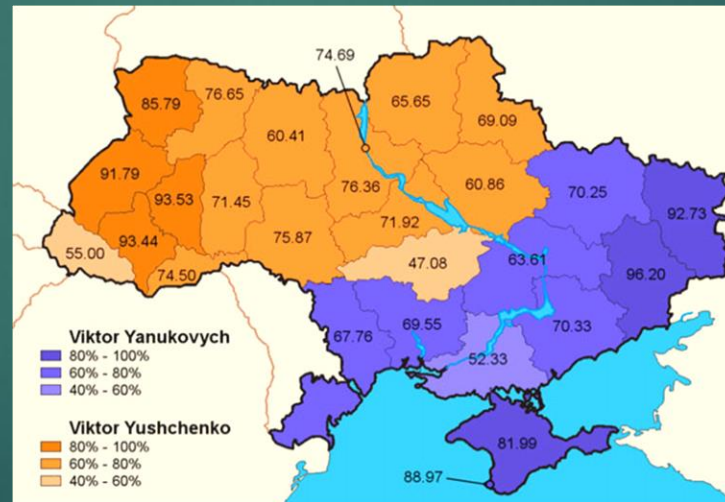
Huntington
1996

ハイブリッドなウクライナ、国家となったが国民国家ではなかった

- 東南ウクライナはソ連軍産部門の中心だった
- 「文明の衝突」=カトリックと正教
- 言語・宗教、政治的に二極なウクライナ
- 東西が争う政治の構図（クチマ、ヤヌコビッチvsユーシェンコ、ポロシェンコ）
- ウクライナでは41%はロシアに好意的, しかし 42% は否定的（2021年2月研究所）
- ウクライナ人の半分はロシアに親戚



1994年（クチマ）、2004年（オレンジ革命）、 2010年（ヤヌコビッチ）の大統領選挙結果 (出典Wikipedia) 東西間のデバイド



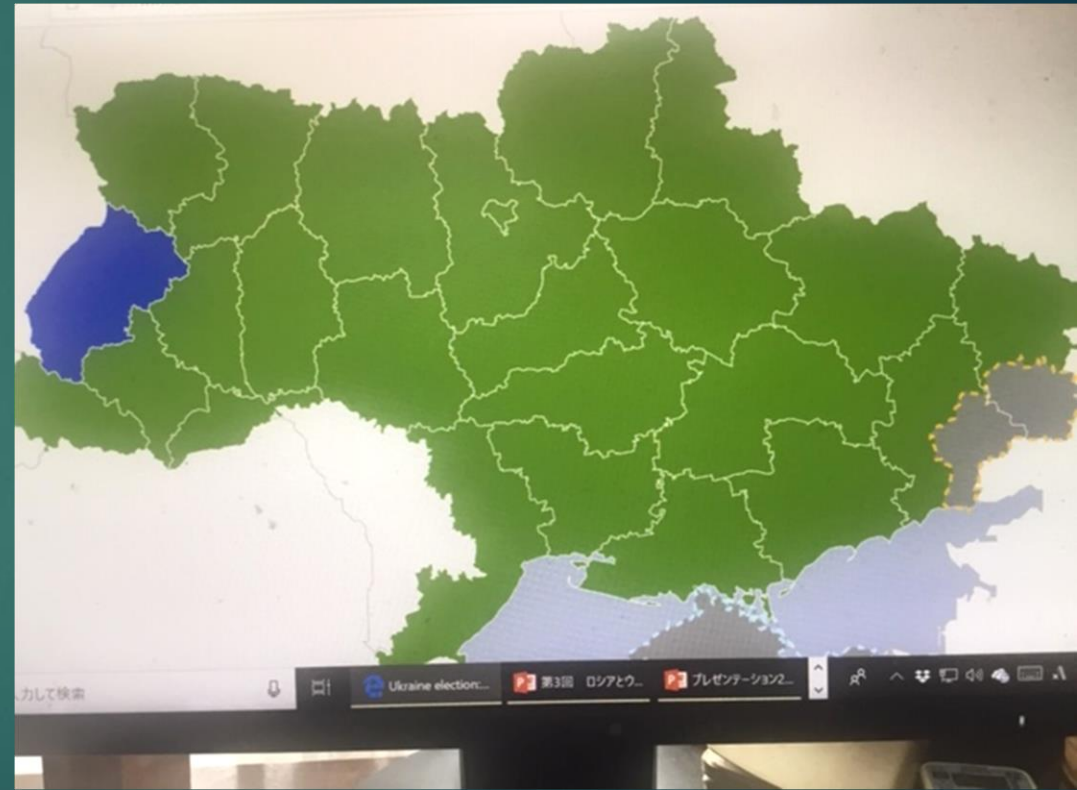
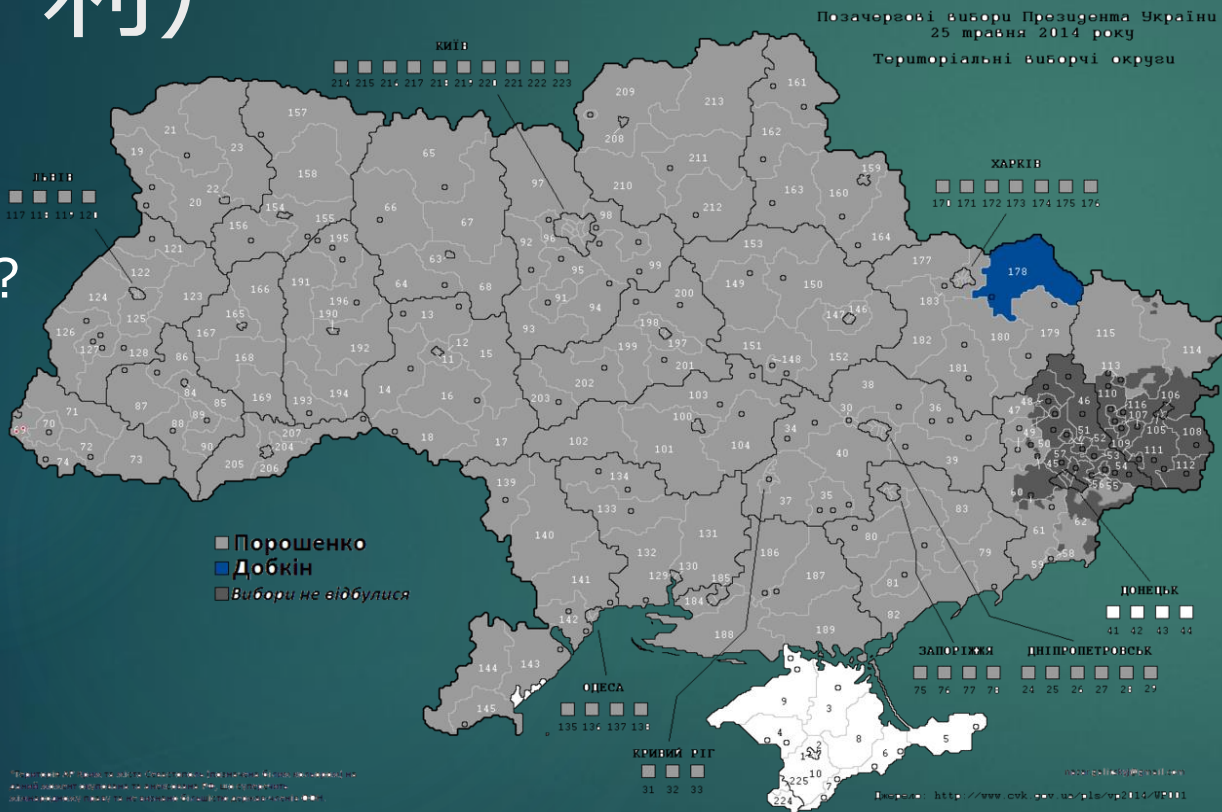
米民主党・ネオコン とNATO東方拡大

- ネオコンの起源は中東欧出身専門家のロシア主敵論、スターリンの「ハリチナ併合」
- 1996年7月クリントン推進、1000万票のポーランド票
- 米の内政問題（コンとネオコンの対立）、ペリー国防長官辞任
- 97年6月ソ連専門家50名の反対（ポール・ニッツ、ロバート・マクナマラ国務長官、サム・ナン上院議員、マトロック大使、G・ケナンは冷戦後最大の誤りと批判
- ネオコンとは、シカゴ大のシュトラウスや、歴史家の父ケーガンらが提唱した米国の優位を基礎とする潮流。
- コソボや中東問題で台頭、息子のR・ケーガン、夫人V・ヌーランド、ボルトン、ウォルフオビッツ、ブリンケンに影響

NATO拡大と米国の戦略・共和系キッシンジャーと民主党系ブレジンスキーの差異（党派対立？）



2014年（マイダン革命）と2019年ウクライナ大統領選挙（ゼレンスキー勝利）



危機は2014年春から始まった

- 「一つの国家に二つのネーション」（ドンバスとガリツィア）
- 2014年2月、ソチ五輪時のキーウでのマイダン革命、ネオコン主導のクーデターか
- 米ネオコン派がヤヌコヴィチ、東寄政権を実力で打倒、大統領は逃亡
- ロシア政府は黒海艦隊共同管理構想が破綻として半島を占領
- 3月18日プーチンはロシア領として併合、ウクライナ海軍多数派帰順
- ウクライナ東部でロシア語話者の反乱、2州独立宣言
- この間ヌーランド次官などはオリガルフのポロシェンコを大統領（「安全保障国家（S.クデリア）」で軍事費5%）
- ウクライナ軍拡とドンバス反テロ作戦（被害者は一万4000から5万？）

なぜ「法に基づく秩序」は破綻したか

- ▶ 2014年クリミア併合とドンバス紛争でのミンスク合意はなぜ破綻したか？ミンスク合意はドンバス二州の特別な地位をみとめる国際条約
- ▶ だがミンスクについて12月メルケル前独首相は「ウクライナ軍強化のための時間稼ぎ」と証言
- ▶ 各国・地域とも二つの路線、米国では
- ▶ ーネオコン路線1992年からロシア弱体化のネオコン派（ウォルフオビッツ、ヌーランド次官、コーガン戦争研、中東欧出のタカ派が結束）
- ▶ ー協調路線派（ケナン、キッシンジャー、バーンズ（CIA）らの現実外交が対話路線）
- ▶ ーヨーロッパでも、仏独ら旧欧州の対口対話派、
- ▶ ーポーランド・バルト3国など新NATOの対口強硬派（ブカレスト9）



プーチンは3日で終わると考えたー『ウクライナのゾルゲはなぜ暗殺されたか』

- 諜報員で銀行家のキレエフ、2022年2月23日に翌日の攻撃、空港の攻撃目標を特定、軍諜報部に伝達。
- しかし功労者は2月末からの条約交渉代表団として参加中、3月5日ウクライナ保安局（旧ウクライナKGB）によって暗殺される（同長官は昨年7月解任）。
- **国是の中立**による停戦はなぜいけなのか？
- 事件は本年1月に米紙が報じ、愛国メダル授与公開、
- 米政府内でブリンケンがクリミア/NATOでの新方針、軍事勝利はないといった時だった。
- 昨年三月末のトルコ仲介による**中立と領土棚上げ**、妨害したのはジョンソン前首相ら英米政府と、トルコ外相、イスラエル前首相が証言している。



まとめかけた3月末トルコ仲介の和平案

- 特別軍事作戦直後にはじまった和平協議（ロシア側はメディンスキー補佐官、ウクライナ側はアラハミア国民の僕党議長
- ベラルーシのベロベーシでも協議（数回）
- 3月トルコの仲介で「ウクライナの高級中立と安全保障条約」というタイトル（プーチンが23年6月17日開示、18条）
- 非軍事化のウクライナ軍の人員は85000（ウクライナは当初25万）、戦車も342台（当初は800台要求）
- ブチャの悲劇後の4月13日の状態（ウクライナ側はこの悲劇で離脱）
- 保障国は、英中米露、トルコ）
- モスクワは3月末にキーウ撤兵で「騙された」
- 3月末バイデンがポーランドで、プーチン体制転換、ジョンソンキーウ訪問で条約遵守だとNATOの協力はないと威嚇（4月9日）



プーチンのウクライナ戦争486日

- 戦争を始めるのはやすく、終わらせるのは困難。
- 昨年2月24日の『特別軍事作戦』の衝撃。三日ではおわらなかった。
- 2014年危機、NATO東方拡大の問題、ミンスク合意の失敗
- しかし作戦は短期には終わらず、昨年三月末トルコ・イスラエルの仲介を潰した英米政府。情報戦で「真実は最初に犠牲になる」。
- 昨年秋から消耗戦の展開 = 昨年九月末からロシアが4州併合、30万人動員計画、消耗戦となると、ロシアは歴史的にも弱くはない
- 米国の国内論争、ネオコンがしかけた紛争でもある。
- 米国覇権の衰え、機密漏洩文書が米国、ウクライナ側の問題も次第に明るみ。
- 「グローバル・サウス」が英米に冷淡、中国の仲介、経済制裁も失敗

なぜ昨年春の親西欧制裁路線が挫折したか

- ネオコンのロシア像は古いロシア像、オリガルフ依存、Crony-capitalism
- 基軸通貨ドルの威光でロシアは破綻すると思った
- その手法は情報戦（ロシアはおとる）、しかし結果は大誤算、西側の方が返り血を浴び、西欧の経済後退、不満
- ーロシアはすでに外貨など制裁に準備していた
- ーロシアはそうでなくとも自立（エネルギー、食糧、金融、軍産複合体）
- むしろ
- ーペトロドルを毀損（サウジ・アラビアを敵に回した）
- ードイツ/中欧のロシアとの経済相互依存を破壊（ノルドストリーム）
- ー結果的に中国/グローバルサウスのドル離れ

➤ 第二幕の現状認識

- この戦争に**軍事解決はない**（11/16 マーク・ミリー米参謀本部議長）
- ーロシア軍は強くはなかったが、弱くもない。115万体制から150万へ
- ー9月段階で部分動員と四州併合、春の敗北から学ぶ、守りと非軍事化
- 消耗戦となると基礎体力はロシア（軍）はウクライナ（軍）の数倍有利
- ー人口減少で口側と比してウクライナ側が今2000–2700万（Alex Vershinin米軍中佐）と圧倒的に不利、Russia Matters. com
- ー外貨準備高は6300億ドル（半分は西側がおさえる） vs.280億ドル
- 春までにウクライナ軍の中核部隊は武器/人員不足
- したがってロシア語話者地域ではロシア軍が優勢となるのは当然の展開
- ロシアの22年GDPは-2. 1、ウクライナは-29. 1（最新データ）

戦況は『ロシア側に有利、情報戦はウクライナ側だったが

- ▶ ドンバス（ロシア語話者が多数）決戦で、最大のバフムト陥落、
- ▶ –NATO派軍人のザルジヌィ司令官はバフムト撤兵進言、ゼレンスキーは死守を命じる
- ▶ 同地は1918年のドネツク・クリボログ・ソビエト共和国の後身で、ドン・コサック=赤軍
- ▶ –プーチンは2022年3月末の停戦協議でキーウ撤兵後、英米がロシア弱体化を掲げたと主張
- ▶ バフムト陥落後に大統領のライバルである総司令官は重病説（サミット期間中生死不明）、米国にとってプランBがきかない？



アレストビッチ前顧問の朝鮮半島モデル解決法

- アレストビッチ・宇大統領顧問の解任(2023年1月)
- ヘルソンでの1月、ロシアのミサイル攻撃が、ウクライナ側のミサイルによる犠牲であったと指摘、解任さる
- 1月22日の『ウクライナの勝利は保障されていない』発言、24日のワシントンポスト紙でのブリンケン長官発言との関係に注目(ウクライナのNATO加盟はない、クリミア奪還は非現実的、非軍事地域設定)
- しかし同氏は3月反転攻勢は支持、4月にゼレンスキー辞任を要求、10日にキーウ講演会禁止、揺らぐゼレンスキー？
- アレストビッチは戦後のウクライナの混迷とゼレンスキーの人気低下を予測(4月10日)、経済に弱い大統領



バフムト（アルチョモフスク） 陥落 = ドネツク・クリボログ共和国(1918)の 後進

- ロシア帝国崩壊後、ウクライナでなかった
- バフムトはロシア名アルチョモフスク
- ミニ・スターリングラードか
- ロシア軍・ワグネルは消耗戦をホームで戦う
- ゼレンスキーも元来、クリボログの出身でウクライナ語ははなせなせなかった
- ゼレンスキーの異常なこだわり、武器、戦車、弾薬不足
- 5月25日、広島G7会議にあわせワグネルが落とす（ウクライナは兵士を失い、ロシアは囚人をうしなった）



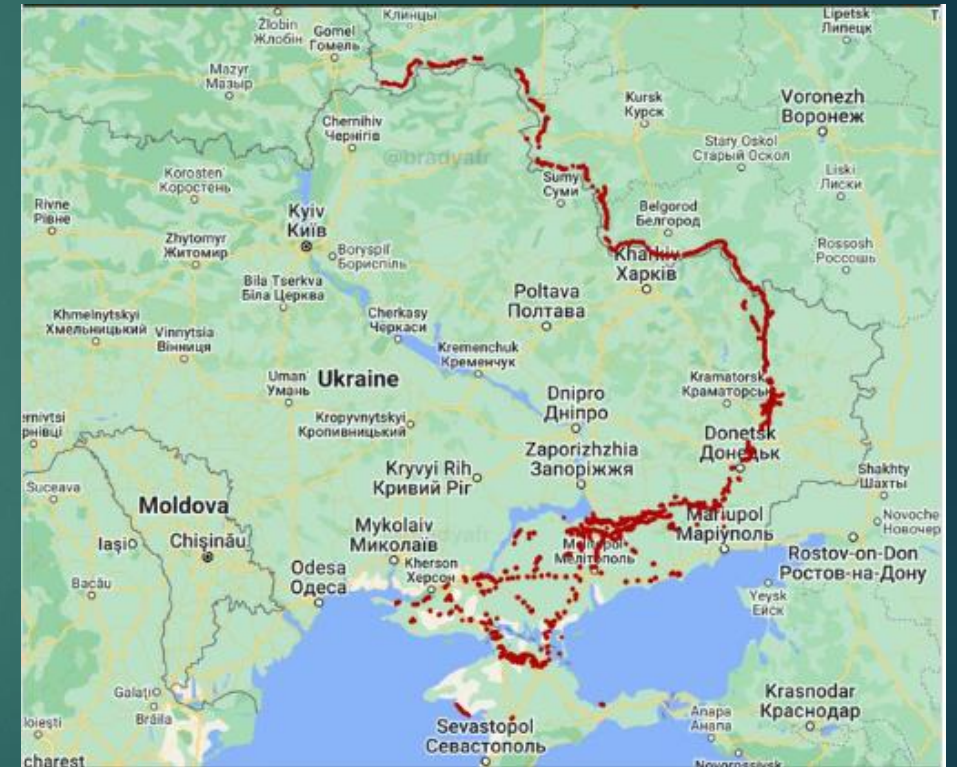
和平を求めるウクライナ世論

- ▶ タカ派のダニロフ安保国防会議書記、3月9日『外交解決=平和条約を求める声が西ウクライナでも、より、より、そしてより高まっている危険』
- ▶ 軍用の資産徴収（家、車）への不満
- ▶ 米CIA長官は『これからの3, 4, 5, 6ヶ月が重要、ロシア軽視に批判』
- ▶ 9月9日のインドG20会議にプーチン出席へ（ブルムバーグ）
- ▶ ローマ教皇、ロシア、ウクライナ同時訪問の計画を公表
- ▶ ウクライナ反攻は本当か？約5万、徴兵困難で3万か？



NATOとロシアの代理戦争

- ロシアとNATOとの代理戦争（ダニロフ宇安保国防会議書記）であることは流出米極秘計画（4月7日）で指摘
- 米国はウクライナの対ロ政策を批判、距離感
- ドンバスなど二割の土地はロシアに渡る（バーンズCIA長官）、交渉による講和
- 休戦モデルは朝鮮戦争型か（アレストビッチ宇大統領前顧問）
- Land For Peace と 全面勝利のなさ
- ハルキウからヘルソンの『ゼレンスキー・ライン』、もしくはプーチン・ラインが38度線となる可能性（右はヘルマー氏の作図ライン）



多極化する世界

- 10日イラン・サウジアラビア和平の衝撃、サウディの米国離れ、中東での中国の威信と米国の威信低下を加速 (Suhoi35、S400)、ロシアの関与も対イランで。
- -イラン核問題
- -イエメン紛争の終わり
- -シリア問題の安定化
- -エジプトまでロシアにロケット提供
- ドイツ = 米国関係の複雑化
- 3日のドイツシュルツ首相の3日訪米の謎、パイプライン爆破が「親ウクライナ勢力」報道 (米NYT独Z、英T同時公表)、シーモア・ハーシ情報の真偽、国家単位の作戦
- ローマ教皇の新しい外交努力 (昨年11月につづき)



2023年露外交概念（3月31日）に見る地政学

- ▶ ロシアは大統領外交、公約
- ▶ アメリカの比重低下（一回はアングロサクソン）
- ▶ ユーラシアの比重が4倍に増大
- ▶ アフリカも3倍(ワグネルの活躍)
- ▶ ラテン・アメリカも倍増
- ▶ 中国は微増に止まる
- ▶ インドは実は減少
- ▶ 日本は軍国主義との関連
- ▶ ドイツもナチスとの関係

	2016	2023
米国	10	4
中国	4	5
日本	1	1
インド	3	1
ドイツ	1	1
ナチ	4	3
BRICS	1	2
北極海	11	12
ユーラシア	6	24
アフリカ	7	21
ラテン・アメリカ	3	8
ヨーロッパ	23	21
NATO	3	1

習近平の訪口と 首脳会談・声明

- ▶ ウクライナ東部の戦況について「良くない」と認めたゼレンスキー、「弾薬不足」が原因（23日読売）
- ▶ バフムトへのこだわりゼレンスキー（12月、本年3月）
- ▶ 追い詰められるゼレンスキー
- ▶ バフムト陥落でクチマ元大統領はドニエプルから撤退を進言
- ▶ 南部反攻はない？
- ▶ マクロン訪中は、仲介？



➤ パンドラの箱を開けるウクライナ戦後 とヨーロッパの再編成

フィンランドのNATO加盟承認（4月）

ロシア=ベラルーシ国家連邦への接近（4月日）、プーチンの戦術核配備宣言

ゼレンスキーはポーランド訪問（4月6日）で特別軍事作戦終了後はポーランドとの国家連合（国境線なき）、一六世紀のポーランド/リトワニア公国の類推=反口、反独

ハンガリーも要求か

ルーマニアとモルドワ連合

主権と領土保全、西側が見逃している 「不都合な真実」

- クリミア半島と黒海艦隊の区別、黒海艦隊は戦略部隊でありこの240年間いちどもキーウの政府が単独支配した歴史はない
- カトリック的西ウクライナとドンバス正教地域の「文明の衝突」、内戦をそそのかしたNATOの正義と「米国第一主義」の高慢
- ロシアとウクライナは兄弟関係であって、正教が基盤の関係
- ドンバス地方とはドン川流域、小説ショーロホフの「静かなドン」は、ドン＝コサックの地、赤軍騎馬部隊の根拠地（ボロシーロフ、ブジョンヌイ国防相）
- コサック出身のゴルバチョフも回想したが、その帰属は中立と共同管理であった。
- NATO軍が黒海艦隊を物理的に殲滅しない限り、「奪取」は難しい。その覚悟はバイデンにはない、下手をすれば第Ⅲ次世界大戦

➤ 反転攻勢の最初の判定 = ウクライナはロシアの壁を突破できなかった

- 13日のバイデン、ストルテンベルク会談で、7月NATO会議でのウクライナ加盟問題は期限を決めず、したがって審議しない(Guardian)。抑止は強化。米が10年保障のイスラエル式？
- ウクライナ近隣国20国が即時参加に賛成
- しかし米独が対ロシア戦争になると反対
- NATOのウクライナ参戦もない（事務次長）。
- 軍事支援を継続（破壊された兵器）、しかしゼレンスキーのパトリオット・ミサイル要請は否認
- ゼレンスキーは参加が決まらないと参加しないと表明していた。
- 17日、バイデンはウクライナのNATO加盟は今回ないと言明
- ロシア側の抵抗は固く、突破がないのでウクライナ加盟問題を協議する機関設置となる予定



和平シナリオの行方

- 戦争に至る基本問題は対口を巡る米国内の亀裂と分断だった
- パクス・アメリカーナは既になく、「西側」の比重低下を示した。
- ネオコンが進めた戦争とエリート内の反発が機密文書漏洩
- ロシア軍は強くはないが、弱くもない、秋以降学んで進化
- ウクライナ軍はこの8年で強くなったが、米国抜きでロシアに対抗できない
- ロシア自体は「大きな北朝鮮」ではない
- ウクライナも戦後「韓国」並の成長を望めない

プーチン大統領の先週の反応（軍事記者、St経済フォーラム、アフリカ首脳）

- 「戦術核を使う必要は無い（頭痛にギロチンは必要ない）」
- 西側との代理戦争に政治解決は可能
- ウクライナの反攻は失敗しつつあり、非軍事化は必要
- キエフ進軍は必要が（いまは）無い
- ウクライナに西側がこの間兵器を投入したことが問題を引き起こした
- ウクライナ国家は尊重するが、ロシアを脅かすことは許せない
- ウクライナ反転攻勢の失敗後、ロシアの進軍は状況次第
- 欧米が劣化ウラン弾を出してきたのは弾が尽きたからだ
- 米国の軍事供給が止まれば、イスタンブール合意の改訂もある
- 第三次世界大戦を米国は恐れている



南アのラマポーザ大統領と会見

終わりに これからの展望

- 紛争の山場は、この夏までに明らかとなろう（インドG20会議）
- ウクライナのクリミア反攻は「勝てない戦争」へ
- 米国の財政支援も秋から年末につきる？紛争凍結の可能性
- 秋からはそれぞれの大統領選、ロシアは2020の憲法改正で次の可能性、「三大統領の負け比べ」（下斗米22）。
- プーチン後継問題とゼレンスキー後継
- 経済制裁は効果なかった、パイプライン爆破での同盟亀裂は拡大
- バフムトでの敗北後、ウクライナはポーランドとの国家連合か？
- 日本はG7広島首脳会議でLand For Peaceへの転換を主導せず

ウクライナ紛争年表

- ▶ 1991年、ソ連崩壊、ウクライナ独立宣言（824）、CIS創立
- ▶ 1994年、ウクライナ、非核化ブダペシュト宣言
- ▶ 1996年、クリントン大統領、NATO東方拡大
- ▶ 1999年、コソボでNATO空爆、プーチン後継者
- ▶ 2007年、ミュンヘンでプーチンNATO批判
- ▶ 2008年、ジョージア紛争
- ▶ 2014年、ウクライナでマイダン革命、クリミア併合
- ▶ 2015年、ミンスクⅡ合意
- ▶ 2019年、ウクライナ憲法NATO明記、和平派ゼレンスキー当選
- ▶ 2020年、ゼレンスキーNATO派へ
- ▶ 2021年、バイデン大統領就任と紛争激化、6月米口首脳会談
- ▶ 2022年、2月24日 特別軍事作戦
- ▶ 2023年、5月19-21日、広島G7首脳会談、6月反転攻勢挫折？